

宮城県保健福祉部医療政策課 地域医療第二班 主事
今野 直人



東日本大震災から間もなく10年を迎えようとしております。津波により沿岸の医療機関は甚大な被害を受けましたが、その後、仮設で運営していた医療施設の再建が完了するなど、石巻市ひいては宮城県の復旧・復興は着実に進んでまいりました。

私自身、震災時は学生の身で、将来、宮城県の復旧・復興のために何かできることはないかと思っておりましたが、図らずも本取組の県事務局を担当することができ、全国から御支援いただく先生方とのやり取りを通じて、被災地の小児医療提供体制の継続・発展の一端を担っていることは、とても良い経験をさせていただいていると考えております。

また、今年度の取組に当たっては、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、一時期はせっかくの御支援のお申し出をお断りしなければならない事態もございましたが、募集した日程においては、ほぼ全ての日程で御支援の応募をいただくなど、小児医療に携わる皆さまの「力強さ・頼もしさ」を実感できた年でもございました。

全国の小児科医の先生方には、これまでの御支援について改めて心より感謝申し上げますとともに、来年度以降も変わらぬ御支援を賜りますよう、引き続きよろしくようお願い申し上げます。

2021.3.11

この4月から東日本大震災小児医療復興新生事務局の宮城県担当となりました今野と申します。微力ながら小児医療復興の力になれるよう努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

全国の小児科医の先生方におかれましては、震災から9年が経過した今でも「石巻市夜間急患センター」へのご支援を賜り、心より感謝申し上げます。ホームページカレンダーの土曜日に「ご支援を頂く予定あり」の文字を見るたび、「ほそくながい」ご支援の継続を大変ありがたく感じております。

今年度は震災から10年目であり、宮城県においても県震災復興計画の最終年度となります。このことから今年1年は仕上げの年であり、これまで蒔いてきた「種」が花開くときではないかと思っております。復興の花を今後も絶やさないように継続していくことが我々の使命だと考えておりますので、全国の小児科の先生をはじめ、皆さまからの引き続きのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020.4.14

宮城県保健福祉部医療政策課 地域医療第二班

主任主査 石本 晴美

この4月から事務局の宮城県を担当している石本です。

全国の小児科医の先生方には、震災から8年が経過した今も「石巻市夜間急患センター」への御支援をいただいております。ホームページのカレンダーの土曜日はほぼ「御支援を頂く予定あり」が続いておりますこと、心より感謝申し上げます。

私は4月に広島県から宮城県へ派遣されたため、東日本大震災による被災経験はありませんが、昨年7月の豪雨災害で広島県内の多くの地域に被害が出た折りには、たくさんの自治体や医療関係者の方々がすぐに駆けつけ支えてくださり、ありがたく思っております。

この事業は、地域医療を支えるとてもいい仕組みだと思っています。これは関係者の皆様の御尽力の賜でもあります。この仕組みが今後も有効に機能し、引き続き石巻市夜間急患センターが地域の小児医療を担っていけるよう、小児科医の先生をはじめ皆様からの御支援を“ほそくながく”賜いますようお願い申し上げます。

2019.04.25



宮城県 保健福祉部 医療政策課 地域医療第二班

羽柴 功子

いつも「石巻市夜間急患センター」への御支援を賜り、誠にありがとうございます。

当センターでは、毎週土曜日の18時から翌朝7時までの診療応援をお願いしておりますが、全国各地からたくさんの先生方に御理解と御協力をいただき、平成30年3月末までに延べ235回の御支援を賜りました。診療にお越しいただいた先生方、そして本事業関係者の皆様の御尽力に感謝申し上げます。

東日本大震災から7年が経ち、宮城県内も日々着実に復興が進んでいます。本県にお越しいただく際には、「今」の石巻の姿を、実際に御覧いただけましたら幸いです。

引き続き、皆様からの御支援を賜りますよう、よろしくようお願い申し上げます。

2018.6.5



御支援を頂いております「石巻市夜間急患センター」は、東日本大震災により被災し、仮設診療所での診療を続けて参りましたが、昨年12月に石巻赤十字病院敷地内に移設され、新しい急患センターでの診療が開始されました。少しずつですが、着実に復興が進んでいることを日々実感しています。

宮城県に御支援を頂くようになってから4年以上経ちますが、全国各地から「石巻のために」と、大勢の先生方にお越しいただいています。平成29年5月末までに延べ180回以上の御支援を賜りました。診療にお越しいただいた先生方、そして本事業関係者の皆様の御尽力に感謝申し上げます。

今後とも皆様からの御支援を賜りますよう、引き続きよろしくお願い申し上げます。

2017.7.13

**宮城県保健福祉部医療整備課地域医療第二班 主事
熊倉 光**

今年7月から事務局の宮城県担当をしている熊倉です。

ご挨拶が遅くなりましたこととお詫びいたします。

まず始めに、日頃ご支援いただいている先生方に心から感謝申し上げます。また、この支援の枠組みを築いてくださった日本小児救急医学会の先生方や、相談や実務を行っている東北大学小児科医局の先生方にも、この場を借りて感謝申し上げます。

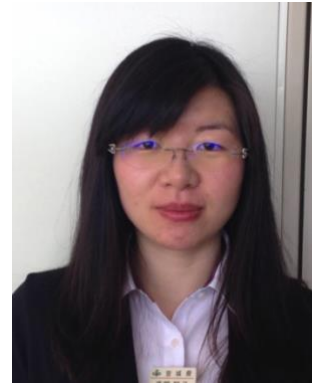


さて、宮城県内では平成25年2月から石巻市夜間急患センターで小児科の診療に支援をいただいております。当センターは、地域で唯一の夜間の初期救急を担っており、欠かすことのできない医療機関です。毎週土曜日の夜から日曜日の朝までの診療に、これまで延べ150回以上にわたる支援をいただきました。震災から5年以上が経過した今でも、支援くださる皆様のおかげで半年先の日程まで予約で埋まっている状況です。今後とも皆様からの温かいご支援を“ほそくながく”賜りますようお願い申し上げます。

2016.8.19

**宮城県保健福祉部医療整備課 地域医療第一班 主事
源間 智子**

宮城県では、石巻市夜間急患センターの土曜日の当直について受け入れを行っておりますが、当事務局の開設から平成28年2月までに全国各地から30名以上の先生からの御支援をいただきました。中には何度もおいでいただいている先生も多くいらっしゃいます。震災から5年が経つ今も継続的に御支援を受けられているのは、応援に来ていただいている先生方と本事業関係者の皆さまの御尽力のおかげです。



本県では、仮設で運営していた一部の医療施設が再開されるなど復旧が進められておりますが、今なお、多くの方々が仮設住宅等での不便な生活を余儀なくされるなど、依然として復興の途上にあります。

引き続き皆さまからお力をいただきながら、地域医療提供体制の復興を推進していく必要があると考えておりますので、今後とも御支援をよろしくお願いいたします。

震災5年目宮城県コメント 2016.3.11

平成28年4月1日より担当になりました。

宮城県保健福祉部医療整備課の源間智子と申します。

震災から5年が経った今も石巻夜間急患センターへ支援の手を差し伸べていただけるのは全国各地からご支援をいただいている先生方、本事業関係者の皆様のおかげです。いつもありがとうございます。至らぬ点が多い身ですが“ほそくながく”の理念に少しでもお手伝いできるよう精進してまいります。これからよろしくお願いいたします。

2016.4.1

宮城県保健福祉部医療整備課 地域医療班 主事

菅原 奈美

小児科医師の皆様

被災 3 県へのご支援ありがとうございます。

宮城県へは石巻市夜間急患センターで土曜日の夜間小児救急診療をご支援いただいております。

おかげさまでご支援をいただいてから今年の 2 月で 1 年が経過しました。ご支援にきていただいている先生方、また各小児科関連学会の皆様のおかげと心から感謝申し上げます。

昨シーズンの冬は 76 年ぶりの大雪が降ったりと降雪量が多い年で、交通機関が大丈夫かと心配することが何回かありました。先生方は早めにきたり、移動手段もいろいろ工夫なさってお帰りになったとお聞きして、先生方の責任感、使命感の大きさに心打たれますとともに感謝の気持ちでいっぱいです。

4 月に入って暖かくなりほっとしております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2014.7.12



宮城県保健福祉部 医療整備課兼障害福祉課

医療政策専門監 大久保 久美子

一昨年に発生した東日本大震災では、県内各地の医療機関が甚大な被害を受け、特に沿岸部では、津波により小児医療機関を含む多くの医療機関が被災しました。その中で、石巻地域は被害が最も大きく、今回御支援をお願いする石巻夜間急患センターも被災し、現在、仮設診療所において小児夜間救急医療を担っております。

本県では、一定程度の地域医療復興は進んできておりますが、依然として全国の医師の皆様のご支援が必要な状況にあります。すでに診療支援いただいた先生からは、“仮設住宅在住の市民がまだまだ多い状況や復興が途上であることを肌で実感した”という感想もいただいております。被災された方々が少しでも安心できる生活を取り戻すため、小児科医師の皆様のお力をお貸しくさせていただきますよう、御応募をお待ちしております。

2013.4.26

